



カメの魅力

会員 小笠原 友輔 (65 期)



カメは不思議な動物です。

まず、何がどうなってあの骨格を獲得したのか。甲羅は肋骨が進化したものらしいですが、説明を聞いてもイマイチよく分かりません。それに、同じカメというくくりの中でも、極めて多様な形態、生態の種があり、スッポンとゾウガメが同じカメだと言われてもにわかに信じがたいものがあります。

カメは、私たちにとても身近な動物です。

皆さんの中にも、小さいころ飼っていた／今も飼っているという方も多いことと思います。かくいう私も、今年で22歳と21歳（推定）になるミシシippアカミミガメを飼っています。本稿執筆時点（1月）では冬眠中なため、ごはんを食べることも水を汚すこともないのですが、春から秋にかけては結構お世話が大変です。最初はあんなに小さくて可愛かったのに…というのはカメを飼っている人共通の愚痴。まあ今も可愛いんですけど。

ペットとして飼われているカメ以外でも、東京では、日比谷公園のミシシippアカミミガメから上野動物園のガラバゴスゾウガメまで、気軽にいろんな種類のカメを目にすることが出来ます。陸上にいると、ウミガメにはなかなかお目にかかることはできませんが、島嶼部を除く東京でウミガメと会える場所もいくつかあります。

私の近年の個人的なお気に入り、スカイツリーの足元にあるすみだ水族館です。同水族館では、毎年、小笠原諸島からアオウミガメの赤ちゃんを預かり、1年程度飼育して成長させてから再度小笠原の海へ帰すという活動を行っているそうです。子ガメの成長はとても早く、来るたびにどんどん大きくなっていくのが実感できて否応なしに情が移ってしまいます。1年経ってまた小笠原

に帰って行ってしまう時期は寂しいですが、厳しい生存競争を勝ち抜いて無事に大人になれるのを祈るばかりです。ちなみにカメは関係ないですが同水族館のマゼランペンギン達も非常に個性豊かで、見ていて飽きません。

そして、カメは私たち人間に、動物との付き合い方を考えさせてくれます。

ご存知のとおり、今も、捨てられるカミツキガメやミシシippアカミミガメが多数います。一見飼いやすそうだからと飼い始めてから、あとで話が違うと気づいて遺棄してしまう方が多いと聞きます。

最後まで責任をもって飼えないなら飼うな、という話ですが、現実的に劣悪な環境でしか飼育できない飼い主のもとに死ぬまで閉じ込めておかれるよりは、少なくともその個体としては遺棄された方が幸福だったのかなとも思っています。そして、同時に、わが家の飼育環境は、食料と健康と安全は確保しているつもりだけど、カメにとっては劣悪だったりするのかな…とも思ったりします。

動物（特に爬虫類）がどう感じているか、何が幸せなのかというのは、結局人間にはなかなかわかりません。本人に「正直なところ、どうなの？」と聞ければ一番なんですが…。

ただ、うちの子らは、少なくともごはんを食べているときは幸せであることは間違いないように思います。

そして、遠くからでもごはんをくれる人は的確に見分け、バタバタ大騒ぎしながら近寄ってくるのを見ると、やっぱり可愛いなあと思います。

結論として、要するにカメは可愛いのです。